

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800237
法人名	社会福祉法人グリーンコープ
事業所名	グリーンコープグループホーム飯塚・和(のどか(ユニット名))
所在地	飯塚市潤野967-13
自己評価作成日	平成29年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成29年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会法人グリーンコープグループホーム飯塚・和(のどか)は開所して9年目を迎えました。近くには保育所、高校、公園、公民館、スーパーがあり環境のよい所にあります。センターは2階建の建物でのどかは1階にあり日当たりのよい場所にあり、他に訪問介護、居宅支援事業所があります。2階にはデイサービスと子育て支援の多目的室がありセンターの中はいつも色々な層の人たちが行き来しております。月1回開催している認知症カフェ「げんきカフェ」には地域の方がみえてご利用者との交流もあります。私たちが日頃行っている介護や認知症の方との関わりを地域の方に教えたり、また、教えられたりと良い関係が築けています。GHのどかでは自分達の作った理念と社福の理念、8つの基本ケアに基づき「その人らしい生き方」を大切にします

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた、閑静な住宅地の一角に事業所はある。個室は、床暖房、トイレや洗面台も設置しており、清潔感のある居心地の良い明るい部屋になっている。食の安全に配慮されたバランスの良い食事の提供や季節のおやつを利用者と職員で手作りすることもある。看取りの時は、家族が宿泊できる体制も整っている。近くに大型のスーパーやレストラン、病院などあり、利便性も大変良い。職員の優しい笑顔の声掛けや支援のもと、利用者の穏やかな笑顔がみられる。外出の機会も多く、日常的な近隣への散歩、外食の機会や季節の花を見に行く等、自宅にいた時と変わらない支援を目指している。認知症カフェの取り組みも3年目を迎え、子供から高齢者まで幅広い年代の方との交流が盛んに行われている。地域に開かれた施設として、これからの取り組みが益々期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	のどかの理念は2014年4月に作り替えました。現在は社福グリーンコープの理念と8つの基本ケアもできて管理者と職員は理念の共有をし実践を行っている	リビングの壁に理念が掲示しており、職員は仕事に向かう前に、理念を確認している。利用者への声掛けや優しい笑顔の接遇が実践に活かされており、地域密着型サービスの意義を働く職員全員が理解できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板をご利用者と一緒に届けに行ったり町内の行事に参加している。また、毎月のげんきカフェ(認知症カフェ)やセンターの行事を回覧板にのせてもらい交流を行っている	日常的に、近所の方が訪問されたり、2階で行なわれているデイサービスの利用者が顔を見せたり、合同で行事や外出をしたりして交流している。町内会の行事に利用者と職員で参加し、地域とつながりながら暮らせるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェも3年目となり馴染みの顔ができて、毎回趣向を凝らして認知症の理解や支援の方法を地域の人々に向けて発信しつつ自分達も学んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではのどかのご利用者の報告やご意見を頂きサービスの向上に活かしている。外部評価についても報告している	2ヶ月に1回開催している運営推進会議には、利用者代表、家族の代表、老人会会長、民生委員、市職員、管理者、職員、看護師参加で実施している。外部評価の取り組み状況を報告したり、意見交換を行ないサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに市介護保険課職員に入ってもらい、事業所の報告やご利用者の様子などを伝えている。相談などが出来る関係を築いている	市主催の障害者記念講演会や「いきいきサロン」の情報を聞き参加している。月1回実施している「げんきカフェ(認知症カフェ)」の取り組みについても地域包括センターと連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年より身体拘束委員会を作り、毎回職場会議で身体拘束や虐待防止について皆で話し合っている。現在センサーマットの使用ゼロです。職員は常にご利用者の位置を把握するようにしており不安な方には個別対応や散歩、ドライブに出掛けて気分の転換を図っている	月1回、職場会議の時に身体拘束委員会も行きテーマを決めて話し合いをしている。職員は、禁止となる具体的な行為を理解している。夕方6時から朝7時まで防犯のため施錠をしているが、日中は、自由に入出入りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前項どおり身体拘束委員会を作り防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度を利用されている方はいない。必要な方にはパンフレット等を配布出来るように用意している。職員には権利擁護や人権については研修を受け学ぶ機会を作っている	職員は、全員参加のもと、権利擁護の研修(3回開催)を受けており、制度を理解している。家族や関係者には、いつでも説明できるように、パンフレットの用意もできている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や終了または改定等の際はご利用者やご家族に十分説明を行い署名捺印をもらっている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3~4回行事の後にご家族に集まって頂きご意見やご要望を伺っている。日々のご家族来訪時には個別に話を伺うようにしている。意見箱は設置し出しやすいように用紙や筆記具を置いているが今のところ入っていない	家族会の時は、意見や要望が出しやすい雰囲気づくりを心がけている。家族の訪問時には個別に話しを聞いている。外出の機会を増やして欲しいとの要望があり、サービスに活かした例もある。玄関入り口の近くに、意見箱も設置している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職場会議を開き運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている、手当の改善等の意見を出し受け入れられた	職場内は、職員のチームワークが良く、意見や提案をしやすい環境にある。福祉用具(スライディングシートなど)の補充の提案をしたり、買い物希望の利用者への援助をその都度行いたい等、職員の意見を管理者は、サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の活用で各自の目標を設定し達成に向けての研修や技術講習、資格習得できるように環境を整えている。賃金も処遇改善により給与に各種の手当がついて上がっている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にはセンター長と管理者、リーダー等が行っている。長く勤めてほしいので働き方の希望を聞いたりその人柄に焦点を当てて採用している。現在40代~60代の職員が働いており、それぞれ希望の働きをしている	事業所で働く職員は、男性1名、女性8名で、手芸や料理、工作など職員の能力を活かした援助が行われており、やりがいを持って、生き生きと働いている。資格取得の研修時には勤務体制を配慮し、自己実現の支援をしている。職員の社会参加や自己実現の権利も十分に保障されるよう配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回の人権研修は必修とし職員全員が受けることにしています。ご利用者はもちろん職員全ての人に人権の尊重された職場にしたいと考えます	職員は、全員参加のもと、権利擁護の研修(3回開催)を受けており、利用者に対して人権を尊重する支援ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修とそれぞれの希望する研修には研修費、交通費等の助成をして積極的に受けるように環境を整え推奨している。他にケアリーダーを置き介護技術や接遇などを勉強して伝授している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯塚市地域密着型サービス事業所連絡協議会に入り同業者と交流や勉強会をしている。今年には徘徊模擬訓練を実施する予定です		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居されたかたには前利用のデイや訪問の事業所、ご家族からも聞き取りをして安心して過ごして頂けるように努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と面談して不安なことや要望を伺ってスムーズに入居できるようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時にご本人やご家族と面談を行いグループホームの生活に馴染めるように他のサービスの利用も含めて話をしている。希望者に理髪、訪問歯科、往診等の対応をしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者との関係を「介護する側、される側」に分けず、「共に生きる人」として接している。出来る家事に参加して頂いたり一緒に出掛けたり、共に暮らす関係を大切にしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	のどかでの行事には必ずご家族にも声をかけて参加して頂いている。敬老会、誕生会、行事等にご家族が来られるととても喜ばれる。また、受診時も出来るだけ同行して頂き健康状態を把握してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば馴染みのパーマ屋に行かれたり家に帰りたくなったら連絡を取り安全に帰れるように支援している	週1回は、家族の支援で自宅に外出する利用者もいる。近所の方や馴染みの方が会いに来た時は、お茶を出したり、記念写真を撮ったりして関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物の整理や掃除、調理の手伝い、配膳など出来る家事をして頂き、終わるとお茶を入れてお互いの労をねぎらえる様な関係を大切にしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年9月に看取りをしたご家族が今も行事ごとに見えて、他のご利用者家族と音楽の演奏をして頂いている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の日頃の暮らしぶりや言動、ケアマネ、ご家族からの情報などで希望や意向を把握し、お気持ちに添えるよう努めている	日常接する中で会話や表情等で思いや希望を把握している。特に入浴時や居室内での1対1での関わりでは安心して意向等が言える機会であり、困難な場合は家族に尋ねて、本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前利用の事業所からの聞き取りとアセスメントを基本にしご家族、友人からの情報やご本人の会話の中からこれまでの暮らしぶりなどを把握するように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやケア会議、モニタリングを行い、ご本人の把握に努めている 管理者、計画作成担当者もケアに入り、実際の状況を介護員からの情報だけでなくご本人と会話することで把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を開き各担当者からの情報や意見交換をし現状に即した介護計画を作成している	利用者は担当制としているが、職員会議では全職員で話し合い、受診時にかかりつけ医の医療面での意見を聞いている。家族の訪問時に意見等を聞き介護計画書に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアの実際、結果、気づき、ご本人の発言など記入している。また個別の目標を書き込み評価にて介護計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各担当者とのケア会議や必要時に意見を聞き、日々ニーズの変化を把握し対応できるようにしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月催している認知症カフェに参加され地域の方との交流をされたり、音楽ユニット(利用者家族)による音楽会を開催している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年2月末にかかりつけ医が交代。(閉院の為)家族への説明の場を設け契約された。24時間対応が必要であれば、往診を受けることができるよう支援している	かかりつけ医の継続については本人、家族に決めてもらっているが、全員が事業所の協力医を主治医としている。また、歯科の往診も受けることができる。他科受診については、家族に受診同行をお願いし、家族がいけない時は職員が同行している。受診結果は家族、職員共に共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には週2回入ってもらい健康管理をしてもらっている。勤務時間外でも必要時にいつでも相談できる体制を取っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院される時、病院へ情報を提供したり、主治医から連絡してもらって、のどかでの生活状態を把握してもらうようにしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に重度化した場合や看取りの指針について同意をいただいている。のどかでの看取りを望まれている方には主治医と連携をとって支援に取り組んでいる。	終末期の対応をしており、今年も8月に1名の方を看取っている。訪問看護師、かかりつけ医の24時間対応や一丸となった職員の対応など、利用者の状態に応じた支援をしていることから、家族の信頼を得ている。家族の希望があれば宿泊や食事の提供も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にお願いし、救急講習をディサービス、訪問介護、ケアマネのスタッフと共に受けた。毎年受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をご利用者も含め実施している。避難経路の確認や消火器の位置、緊急連絡網の確認を行った	年に2回、避難誘導訓練を行っている。水害も想定し2階に誘導している(直角避難)。今年の消防署指導依頼に対しては筑後地区の水害支援の為に来てもらっていない。スプリンクラーを完備し、備蓄も整えている。地域の方に避難訓練の協力依頼をしているが、日中は高齢者が多く、参加実施には至っていない。	有事に備え、スムーズな避難誘導や利用者の安全確保のために、今一度、地域の方との協力体制のあり方について検討する機会を持ち実施することが望まれる。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念でも上げているように入居者の方の「その人らしさ」を大切にしている。尊敬の気持を忘れず声かけや対応には常に心掛けている	排泄の声掛けは、周囲に聞こえないように耳元で声掛けし居室に移動して、居室のトイレを利用している。職員は利用者に対して、家族同様にやさしく温かく、人としての尊厳をもって接している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事でパンのお好きな方には希望通りパンをお出ししたりお好みの飲み物などを聞き取りして飲んで頂いている、昼食後のコーヒーや飲みものは好評です		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や動作のゆっくりな方には見守りつつ待つケアをしている。散歩やドライブは喜ばれるので良く出掛けている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日のメリハリを大事にしている、朝フロアーに出て来られるときには寝巻から服に着替えて頂き、夕食後は寝巻に着替えて頂く、特に外出などはおしゃれをして出掛けるようにしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は皆さんの楽しみの一つで出来る方には食事の準備や片付けをして頂いている。料理の得意な職員と皆さんで蒸し饅頭など作るととても喜ばれる、干し柿作りやつくしの袴むきなども現役顔負けの力を発揮していただく	利用者の能力に応じて、配膳や後片付け、おやつ作りを職員と一緒に積極的にしている。食事介助が必要な場合には、職員が介護をしながら一緒にゆっくりと食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は軟食が中心でミキサー食、減塩食、糖尿食、一口大の方がおられる、出来る限り自力摂取を援助している。ミキサー食の方も味が混ざらない様に皿ごとに分けている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは自室でされる方は2人、他はフロアで準備、誘導、介助を行っている。必要時には訪問歯科に来て頂き治療や指導を受け実践している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録しトイレにお誘いしている。リハビリパンツを使用している方を1名布パンツに変えた、新しく入居された方は時間ごとにお誘いし失敗が少なくなるように支援している	職員は利用者の排泄パターンを記録し、一人ひとりに合った声掛けや誘導を行っている。利用開始時に紙パンツ使用だった方が、布パンツに改善した事例もあり、排泄面の自立に向けて取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の為、ヨーグルトや水分補給、果物や野菜の摂取を多くし、室内、戸外散歩などで身体を動かすようにしているが難しい方にはかかりつけ医による薬のコントロールをしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午前中に行っている。2日に1回の入浴を基本にしているが高齢や病状などに応じて変更している。以前は2人介助だったが現在は1対1の対応でゆっくり話ができて皆さん楽しみにされている	安全のために職員2名で入浴介助をしていた時もあったが、職員1名での対応の方が、ゆっくりと落ち着いて入浴してもらえることがわかり、以後は継続している。浴室には備え付けのリフトがある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使い慣れた家具を持参されたり、これまでの生活習慣を尊重し、ベッドの使用等状況に合わせて準備している。居室の換気や室温・湿度にも気をつけている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は薬剤師と看護師が行い、介護職が服薬支援している。のみ込み問題のある方には粉やゼリーにして飲み込みやすいように工夫をしている。服薬チェックは2名で行い服薬ミスを防いでいる。症状に変化があれば看護師や医師に連絡している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブ、買い物は皆さん好きなのでよく出掛けている。家事の参加や食事の挨拶など役割りを持って頂けるように支援している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物はご希望を伺いよく出掛ける。年に2～3回遠出をしたり地域の方と交わった行事に参加している	事業所の周辺を日常的に散歩している。季節の花見に大きな公園や道の駅等に出かけている。全員参加のバスハイクで門司港や小倉城に行き、ミキサーも持参し、全員で外食を楽しんだ事例がある。同行する家族もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金の管理をされる方は少なく2名程の方が買い物に行かれた時に使われる、また、まつりなどでは皆さんで物販品を買えるように支援した		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡は携帯電話を利用される方が3名でご自分で用意されている、あとの方は希望があれば電話を取り継いでいる		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各所に季節を感じる草花を生けたり、ご利用者と職員とで作成した切り絵、工作などを飾っている。 室温、湿度も小まめに調整し居心地良く過ごせるように工夫している	リビングや廊下は広く明るく床暖房も完備している。2、3名用のソファを数ヶ所に配置しており、利用者はゆっくり過ごしている。壁や廊下には行事の写真や、職員とともに作成した折り紙も掲示しており、思い出話がはずんだり、目を楽しませたりしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前やフロアー各所にソファーを置いて自由に座って頂いている、職員も入り皆で談笑している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだダンスや写真、飾りなど自室には自由に置いて頂きご本人が居心地良く過ごせるようにしている	居室は広々としてどの部屋も明るい。トイレと洗面台が備え付けられ、クローゼットも十分な収納力で部屋がすっきり整理されている。家族が訪問した時も宿泊できるゆとりが十分にある。テレビや冷蔵庫の持ち込みも可能で、電話線もひくことができ、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで安全にゆったりと過ごせるようになっている、廊下が長いので運動になる		